



雲
林
院

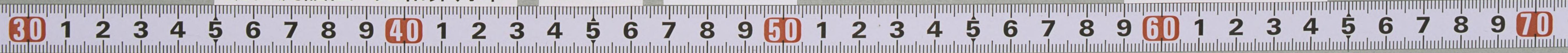
院林雲

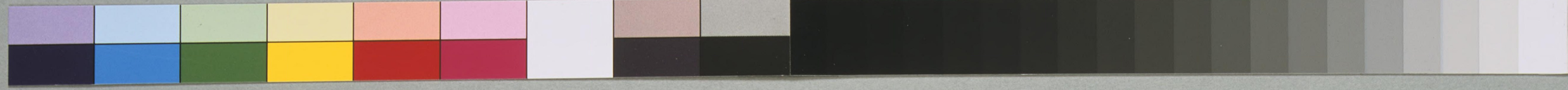
観世流謡曲 元和卯月本

09-001

9 雲林院

国立国会図書館





次方
 夜咲松も紫のく雲乃ど中を
 壽尊 口井 是ハ津乃國昔屋の室子
 玄免と尸者よそ作我ハときあり
 くらひも伊勢物語を平河人
 成よある夜少き乃雲夢を
 蒙りて山ほとひ今高き子
 のほちやとね作 サ 花乃新子

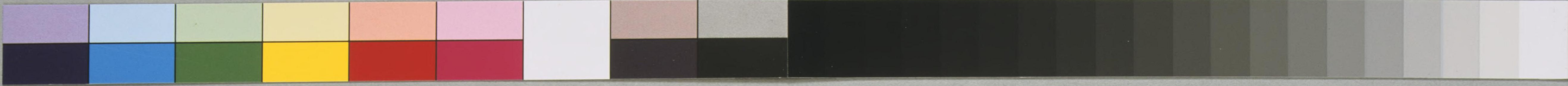


院林雲



用る日初陽うまほくとも
考てかゝ家時落言くもき
まらふの月去都よ為也
^下あやめ里を立しく我およ
をもじきいふあつ月のみ
うえ垣のゆるこの浦を
^上松陰子煙をろく江の邊

さそくみたるはるの
とくをねは津よまわのた
冬こもわとつよ都路のき
かすほと桜よまきれあ
やの林よさるまわ
^口さるかよ人家をみる花あ
すあつちるあつと文信



まよわ花をばらばら ^{ニテ} ばらばら花
 ねるいぎふいあしたの霞きこ
 まよわ夕の會の夢のよみおよ
 長岡よあつめあつあつ ^ト の山
 名よ ^ハ くるまきま ^ハ どのん ^ハ あり
 ねよ ^ハ 暮 ^ハ ち ^ハ り ^ハ の ^ハ 雪 ^ハ せ ^ハ せ
 ね ^ハ ね ^ハ の ^ハ ち ^ハ ころ ^ハ ん ^ハ せ ^ハ り

あつあつ木 ^ハ の ^ハ ち ^ハ ころ ^ハ ん ^ハ せ ^ハ り
 あつあつ ^ハ つ ^ハ ね ^ハ の ^ハ 雪 ^ハ せ ^ハ せ
 ん ^ハ の ^ハ 落 ^ハ 花 ^ハ ね ^ハ 借 ^ハ り ^ハ ん ^ハ の ^ハ ち
 ね ^ハ の ^ハ ち ^ハ ころ ^ハ ん ^ハ せ ^ハ り
 心 ^ハ 有 ^ハ ぎ ^ハ そ ^ハ も ^ハ ち ^ハ ころ ^ハ ん ^ハ せ ^ハ り
 ね ^ハ の ^ハ ち ^ハ ころ ^ハ ん ^ハ せ ^ハ り
 あ ^ハ り ^ハ ね ^ハ の ^ハ ち ^ハ ころ ^ハ ん ^ハ せ ^ハ り



さなも花さしつらなむらさき
もいばらふらふ年おぼれも
わらふらんよわらふききし
さくらのやうに語らば桜華
年こそおぼれ家つとにきくと
よえききう ニテ 花よよし
よあふきよ 下 花のつら

さなも花さしつらなむらさき
もいばらふらふ年おぼれも
わらふらんよわらふききし
さくらのやうに語らば桜華
年こそおぼれ家つとにきくと
よえききう ニテ 花よよし
よあふきよ 下 花のつら

花とるはなも 三十一 けりあは

てふあはれをさうくうかえ

がし 七 くらも 十一 花も 十一 けりあは

い 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

ま 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

た 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

つ 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

あ 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

あ 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

あ 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

あ 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

あ 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

あ 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

あ 十一 けりあは 十一 花も 十一 けりあは

つるふも紅乃も返りしれは
女は束帯給へるだの伊勢物語
のらしきもたらすこたまよを
あしちよもつる翁よりへんあれ
らう伊勢物語の根本在中將
筆草が女は二階乃きららうあも
あふふら陰謀のまゝのもも

語系とスル夢らうあまもわし
あふだ心事よそは福よ是ま
ましつてハ ^{ミテ} 叔らうスルこを
感しつゝもあしをらつきん
とあふもむいふまよしう今むじり
まし夢をゆめ入 ^{「キセ」} けし
らうあふもこし袖なかし



かねてから 三十四 其もふ衣とりて
 けしきもねの字を物知りて
 かしらふらふくま ハキセル かしらふ
 委しきへ ニテ 給ふは ハキセル けしき
 やらき ニテ 校卒の ハキセル けしき
 若 ニテ だとも ハキセル けしき
 業卒 ニテ とも ハキセル けしき

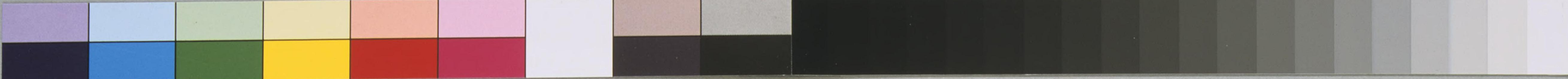
上三白
 新 ニテ ぬを ハキセル けしき
 志 ニテ 思ふ ハキセル 心 ハキセル 故 ハキセル 又 ハキセル けしき
下 けしき ハキセル ま ハキセル こと ハキセル けしき
 けしき ハキセル の ハキセル 華 ハキセル の ハキセル 名 ハキセル けしき
 けしき ハキセル を ハキセル けしき ハキセル けしき ハキセル けしき
 けしき ハキセル けしき ハキセル けしき ハキセル けしき
 けしき ハキセル けしき ハキセル けしき ハキセル けしき
 けしき ハキセル けしき ハキセル けしき ハキセル けしき
 けしき ハキセル けしき ハキセル けしき ハキセル けしき



いかに
らぬえ来浪の月子陽てさ
言ふしなを乃花衣袖をさ
かみたるわ
わ昔のさあめ袖をさ
まのさあめ
のさあめ
あさりれ鈴よびるゆん

ましまさう
るまき者男の
鳥子来さ
まのさあめ
かみたるわ
わ昔のさあめ
まのさあめ
のさあめ
あさりれ鈴よびるゆん

松此物語ハ



日
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

まる雪あけと月入我らと
 雲路りる花日の今らぐらよ名
 河社多りざり人けし有つら
 遍昭つらねし花の散りる
 あいだのをらちりしつら
 もしましむ行かつまゝ衣の紅
 かつののちぬあさつらき清れ



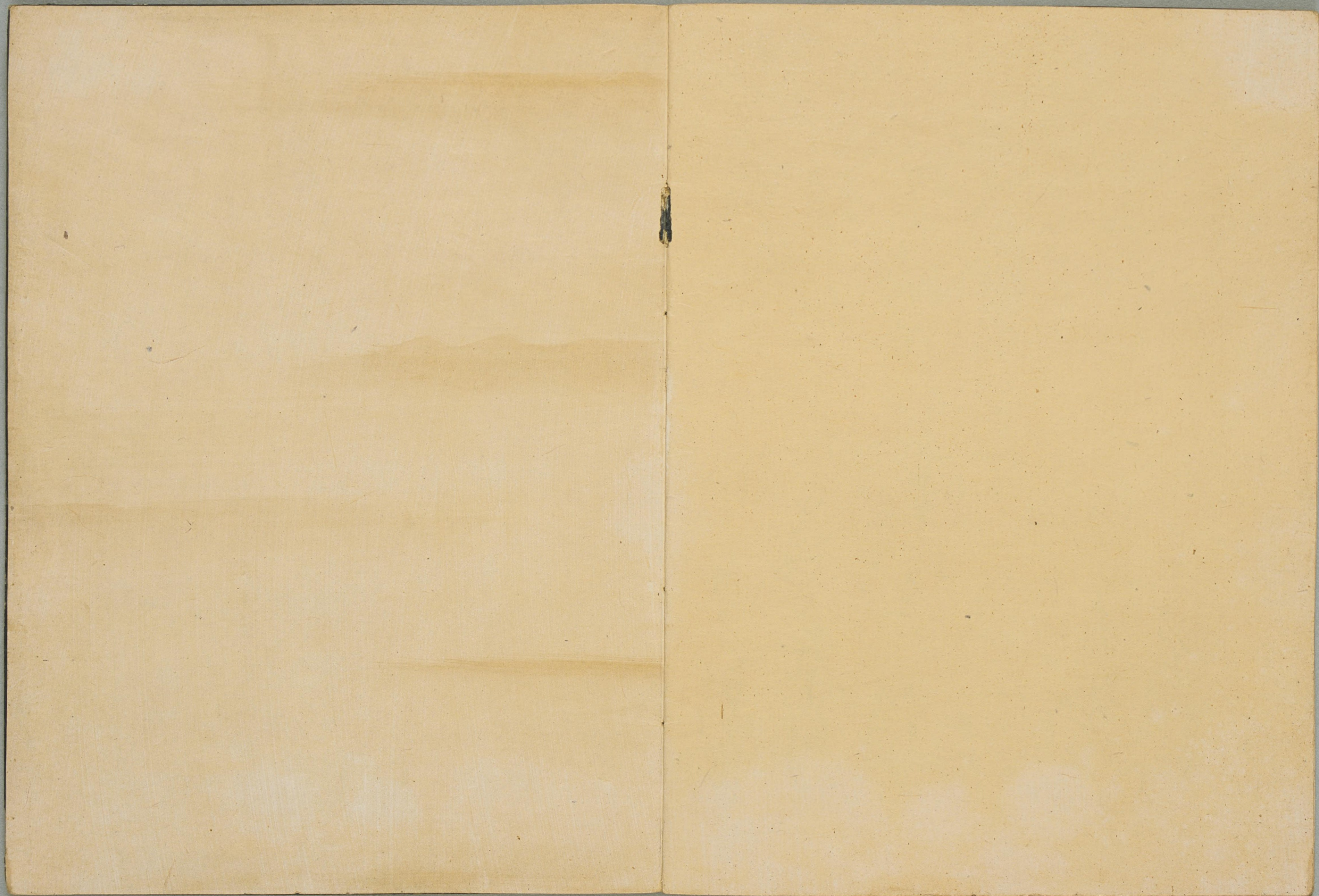
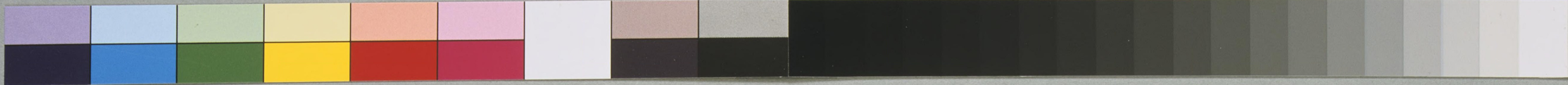
あまのまめ男のまゝの
友とてあまのまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの

あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの
あまのまめ男のまゝの

松の成る散失すトいふ
まへも情志る言の聲子ののかり
うぢよわくかゝりてゐるいづれに
伊勢物語がさるまゝすゝらえ家
等とありまゝかゝりて

右百番之女有る家直
傳石岡か左妻の音早句付
依波板起程い今情書
加奥あり早

元和六年 親世左近大夫
卯月日 音早



観世流謡曲 元和卯月本

09-013

9 雲林院

国立国会図書館





観世流謡曲 元和卯月本

09-014

9 雲林院

国立国会図書館

